

七福神

長唄

全詞章

作詞者・作曲者不詳

〔本調子〕 夫れ伊弉諾伊弉冉夫婦寄り合ひ、漫々たる和田津海に、天の逆鉾下させ玉ひ、引上げ給ふ其の滴、凝り固つて一つの島と

月読日読蛭子素盞鳥儲け給ふ、蛭子と申すは恵比寿の事よ

骨なし皮なしやくたいなし、三歳足たち給はねば、手繰りくりくる来る船に、乗せ奉れば

青舞原に流し給へば

海をゆづりに受取給ふ、西の宮の恵比寿三郎、いともかしき釣針下し、万の魚をつりつつた、

姿はいよきてしほらしや

〔二上り・引く物尽くし〕 ひけやひけひけ、ひくもの品々、様はきはずみ琵琶や琴、

胡弓三味線東雲横雲、そこひけ尾車子供達は御座れ

宝引しよしよと、帆綱ひっかけ宝船引いて来た、いざや若い衆網ひくまいか

沖の鷗がぱつとぱつと、たつたは三人張の強弓、よつ引き絞りひようふつと射落せばサ、

浮きつ沈みつ浪にゆられて

沖の方へ引くとの水無月なかば、祇園どのの祭で山鉾飾つて、渡り拍子でひいて来た

拍子揃へて打つや太鼓の音のよき、鳴るか鳴らぬか山田の鳴子、山田の鳴子、

引けばからころからりころり、からりころりからころからころや

嚮食み揃へて神の神馬を引連れ、引連れ、勇み勇むや千代の御神楽、神は利生をつげの櫛、

つげの櫛、引き注連縄の長き縁を